



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	TCT創造性検査におけるインストラクション効果
Author(s)	伊賀, 憲子
Citation	研究紀要 10 (1979-01) pp.59-69
Issue Date	1979-01-31
URL	http://hdl.handle.net/10457/2881
Rights	

TCT 創造性検査におけるインストラクション効果

伊 賀 憲 子*

The Effect of Instruction on the Responses of “Test for Creative Thinking”

Noriko Iga

I は じ め に

「創造性 (Creativeness) とは何か」という定義および概念について検討することは、創造性研究にとって出発点でもあり到達点でもあるといえる。創造性とは、今まで存在しなかったような新しいものを造り出す能力、心的態度、体験過程を意味する……といった辞書的な定義づけは可能であるとしても、心理学的な意味づけとなると、研究者の立場、価値観が投入され、その定義が各人各様となることは、避けられない事実であろう。「創造 (Creation)」に対する人間の思想的関心は、かなり古くから存在したが、心理学的アプローチが加えられ、直接の研究テーマとなり得たのは、1950年頃からである。その実証的研究は、J. P. Guilford によって口火がきられた。彼は、創造力をより基本的な才能 (個々の様々な能力・過程) に還元することを試みた。すなわち、50種をこえる各種のテストを行ない、因子分析することにより、創造力を構成する6種の因子を抽出したのである。それらは、次に示す6種であった。

①問題に対する敏感さ (Sensitivity to

* 本学講師 造形心理学

Problem)……「課題を解決するにあたり、問題点や改良点を敏感によみとる能力。

②流暢性 (Fluency)……言語が流暢であること。又、アイデアの豊かさに関する量的側面に関する因子。

③独創性 (Originality)……課題を解決するにあたり、特定の解決方法にこだわらずに、多方面にわたって解決方法を求め、多くの領域に思考をめぐらすことのできるような柔軟な思考の能力。

④柔軟性 (Flexibility)……反応内容が一般の人々とは異なった、非凡な反応を生むことのできる能力因子。

⑤綿密性 (Elaboration)……細かい点まで注意をはらって完成するための能力。

⑥再定義 (Redefinition)……ものごとの概念を一度頭の中で分解したのちに再構成、再定義する能力の因子。

J. P. Guilford らの研究により、独創性が創造性の因子の一種であるということから、創造性と独創性の概念の区別がなされ、又、彼の提供したモデルによって、創造的思考を測定する用具を体系的に構成することができるようになり、検査・測定を主とする研究における創造性テストの開発に大きく寄与してきたことは明らかで

ある。現在使用されている、あるいは作成されている創造性テストの多くは J. P. Guilford の因子分析に基づくものである。

II TCT 創造性検査

久米稔らは、創造性検査の得点化にあたり、従来から試みられている流暢性、柔軟性、独創性などの尺度の中で、創造性検査の中核をなすといわれるにもかかわらず、その尺度化に関しては充分な論議がなされていない「独創性」の評価について、その反応を着想、発想の過程から捉えて尺度化する方法を試みた。研究にあたって、久米らは独自の創造性検査 (Test of Creative Thinking) を作成したが、これは言語性・非言語性あわせて6個の下位テストで構成されており、その内容と制限時間は次のとおりである。

1 言語性テスト

①用途テスト (Utility Test)(テスト時間2分)

次にあげるものは、どんな使い方がありますか。使い方をできるだけたくさんあげてください。

カンヅメのあきカン

用途を再定義させようとするもので、その使用法をいかに量的、質的に豊富にあげるか、又カンヅメのあきカンのもつ容器の用途から、どの程度かけ離れた着想、発想ができるかをみるものである。

②原因推定テスト (Cause-Inference Test) (テスト時間2分)

ひとりの男が椅子に腰掛けて雑誌を読んでいた。その人は突然雑誌を閉じて立ちあがり大急ぎで部屋を出て行きました。

さてどうしたのでしょうか

どうしたのかを、できるだけたくさん書いてください。

J. P. Guilford がエピソードテストに用いたもので、原因をいかに量的、質的に豊富に、又

意外と思える原因をどの程度設定できるかをみるものである。

③標題付けテスト (Plot-Title Test) (テスト時間3分)

あるデパートで手袋のメーカーに100ダースの手袋を注文したところ、左手だけの手袋が100ダース届いてしまいました。

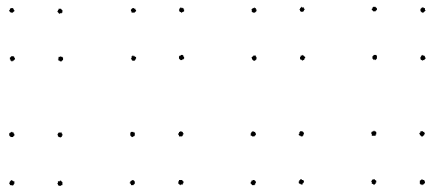
この話に題をつけるとしたら、どんな題がよいでしょうか。できるだけたくさんあげてください。

J. P. Guilford が、Plot-Title Test で用いたもので、いかに量的、質的に豊富に標題をつけるか、また、この事実を巧みに表現した標題をどの程度作れるかをみるものである。

2. 非言語性テスト

①4点描画テスト (Four-Point Picture Drawing Test) (テスト時間3分)

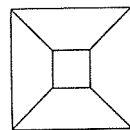
次にあげた4つの点をつかって、できるだけたくさん絵を描いてください。



4点を用いていかに量的、質的に豊富に描けるか、また、4点の正方形的特徴にどの程度とらわれないで描画できるかをみるものである。

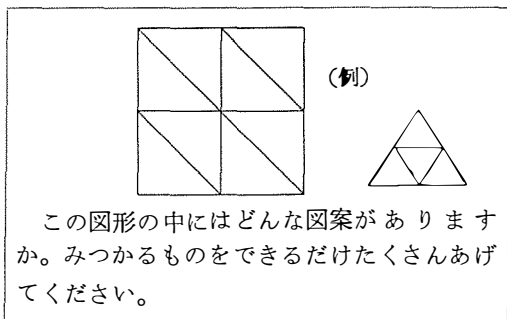
②想像力テスト (Imagination Test) (テスト時間2分)

次にあげる図はなんだと思いますか。思いつくものの名前をできるだけたくさん書いてください。



平面視あるいは立体視できるこの図形から、どの程度量的、質的に豊富に、また意外で具体的な物体が想像できるかをみるものである。

③ 図案発見テスト (Pattern-Detection Test)
(テスト時間 2 分)



図形の中から、いかに量的、質的に豊富に図案を発見するか、また幾種類もある図案の中からアンバランス図案や分離図案をどの程度発見できるかをみるものである。

筆者の属する研究グループでは、上記のような TCT 創造性検査を作成し、3 個の下位尺度 (稀少性尺度・巧妙性尺度・遠隔性尺度) を設定し、各尺度とも 6 段階の評定法を用いて数量化を行なうという方法で、独創性反応の評価基準の検討を中心とした研究を進めてきたのである (本学研究紀要第 9 集参照)。

III 本研究の目的

ところで、これまでの研究では、検査実施の際のインストラクションが、反応に及ぼす効果については、検討を加えていなかった。そこで、本研究では、「これから行なう検査は皆さんが『どのように考えることができるか』を調べるものです。」との従来の標準的インストラクションに、「創造性テストです。」または「できるだけ面白い答えを考えてください。」などの強調を加えた場合に、反応にどのような変化が認められるかを、TCT 創造性検査において検討することを目的とするものである。

IV 方 法

1 検査課題：TCT 創造性検査 (言語性・非言語性) の 6 テスト、すなわち、用途テスト・原因推定テスト・標題付けテスト・4 点描画テスト・想像力テスト・図案発見テスト。

2 被験者：東京近県 F 市の商業高等学校 3 年生 5 クラス (全て男子) 計 251 名。

3 手続：検査実施にあたり、クラス別に次の 5 種のインストラクションを与え、5 群を構成した。

①「標準」群：検査実施に先立って、「これから行なう検査は、皆さんが『どのように考えることができるか』を調べるものです。学力検査や知能テストではありませんから、『正しい答え』とか、『こう答えなければならない』ということは全くありません。どのように答えてもよいのです。」と標準的に教示。51 名。

②「創造性」群：上記の標準的教示に、「(知能テストではなく) 創造性テストです。」と挿入して教示。53 名。

③「面白い」群：標準的教示に、「(どのように答えてもよいのです。) ただ、できるだけ面白い答えを考えてください。」と挿入。各テスト前の教示でも、「面白い使い方、原因や理由、題、絵、物の名前、図案を考えてください。」と強調。48 名。

④「変った」群：標準的教示に、「(どのように答えてもよいのです。) ただ、できるだけ変った答えを考えてください。」と挿入。各テスト前の教示でも、「変った使い方、原因や理由、題、絵、物の名前、図案を考えてください。」と強調。51 名。

⑤「ひらめき」群…標準的教示に、「(知能テストではなく) ひらめきの良さをみるテストです。」と挿入して教示。48 名。

これら 5 群に、研究グループのメンバー 5 名 (男性) が教示者となって、同一時限に一斉に検査を実施したものである。

V 結果と考察

得られた6テストの反応を、各々流暢性 (Fluency, 反応数, 以下Fと略す), 柔軟性 (Flexibility, 反応カテゴリー数, 以下Xと略す), 巧妙性 (Cleverness, 以下Cと略す), 遠隔性 (Remoteness, 以下Mと略す) 独創性 (Originality, 以下Oと略す), (ただし, CとMは0~5の6段階評価点の総計, また, OはCとMの合計点)の尺度により採点し, さらに最高得点法(個人の反応中の最高得点による評価)による巧妙性 (Cm), 遠隔性 (Mm)を加え, 計7尺度(採点法)によって採点し, 各群の平均得点を計算した結果が, 図1~図7である。さらに, 5群の全ての組合せについて, 群間の平均得点の有意差の検定を行なった結果が表1, 表2である。

まず, 「標準」群と他の4群各々との比較では,

①「創造性」群: 言語性テストでは, 用途テストのF, C, Oで有意に優れたが, 他の2テストでは有意差がなく, 非言語性テストでは, 3テストのいずれにおいても有意差が認められない。

②「面白い」群: 言語性テストでは, 用途テストのMでは有意に優れたが, 逆にCmでは有意に劣り, また, 標題付けテストのFでも有意に劣り, 原因推定テストでは有意差が認められない。非言語性テストでは, 4点描画テストのF, Xで有意に劣り, 想像性テストのF, X, O, C, M, Cm, さらに図案発見テストのF, O, C, M, Cmのいずれにおいても有意に劣っている。

③「変わった」群: 言語性テストでは, 用途テストのCm, 標題付けテストのX, Cmのみで有意に劣り, 原因推定テストでは有意差なし。非言語性テストでは, 4点描画テストで有意差がなく, 想像力テストのF, O, C, M, Cm, 図案発見テストのF, O, C, M, Cmのいずれにおいても有意に劣っている。

④「ひらめき」群: 言語性テストでは, 3テストのいずれにおいても有意差がなく, 非言語性テストでは, 4点描画テストのFでは有意に劣ったが, X, O, C, M, Mmのいずれにおいても有意に優り, 想像力テストではCmのみで有意に劣り, 図案発見テストでは, 有意差は認められていない。

尚, 「標準」群以外の4群相互の比較については, 本研究の目的から副次的である為, 表1, 表2にその結果を掲げるにとどめるものである。

上述の結果に, 各々考察を加えると, 次のような点が指摘される。

結果①について: 言語性テストでは, Mで有意差が認められない点から, Cでの有意差は, Fの差の反映のみによるものではないと考えられ, 従って, 「創造性テストです。」とのインストラクションの挿入は, 用途テストの反応数と, 反応の巧妙性を促進したといえる。又, 非言語性テストにおいては, 反応に有意な結果が認められていない。

結果②について: 言語性テストでは「面白い答えを考えてください。」とのインストラクションの挿入は, 用途テストの反応の遠隔性を促進し, 標題付けテストの反応数を抑圧したといえる。非言語性テストでは, 3テストすべてにおいて, 反応数が抑圧されたのみでなく, 4点描画テスト, 想像力テストでは柔軟性が抑圧され, さらに想像力テスト, 図案発見テストでは巧妙性, 遠隔性すらも抑圧されている。

結果③について: 言語性テストでは, 「変わった答えを考えてください。」とのインストラクションの挿入は, 標題付けテストの反応の柔軟性と, 反応の巧妙性の到達可能性をともに抑圧したといえる。非言語性テストでは, 4点描画テストでの変化は認められないが, 想像力テスト, 図案発見テストの反応数が抑圧され, さらに, 巧妙性, 遠隔性すらも抑圧されている。

結果④について: 言語性テストでは, 「ひらめきの良さを見るテストです。」とのインストラクションの挿入は, 何ら効果を及ぼさなかつ

たといえる。非言語性テストでは、4点描画テストでは、反応数は減少しているが、柔軟性をはじめとして、巧妙性、遠隔性において、反応の質的高まりが認められる。しかし、想像力テストでは逆に、巧妙性の最高得点での低減が認められるのみで、図案発見テストへの効果はみられない。

以上の結論は、課題への取り組み態度のウォーミングアップの過程が、教示者が異なっても同一であること、また、「創造性テストです。」「ひらめきの良さを見るテストです。」とテスト実施前に一般的に教示しただけで、その効果が6テストを通じての遂行に、最後までその主旨が被検者に徹底していること等のコントロールを仮定しえた上でのものである。これらを仮定した上で、結果に見られる各インストラクションの各テスト、また各尺度（採点法）への効果の非一貫性については、次のように考えられる。まず、各検査課題の解決における思考過程が異なり、インストラクションの効果が様々の形において現われたこと。この点は、評価基準の設定と無関係なF（流暢性）における各テスト毎の非一貫性から、うかがうことができる。

次に、C、Mの評価基準のテスト毎の相違が、インストラクションの効果を様々にしたことが指摘される。例えば、「面白い答えを考えてください。」とのインストラクションは、用途テストのM（遠隔性）を促進するが、標題付けテストのMを、有意ではないが抑圧したといえる。

これは、Mの基準が前者では「ありふれていない、意外な使用法」であるのに対して、後者では「非現実的説明」である点に原因が求められる。

以上の考察から、TCT-A型、B型ともに、「創造性テストです。」とか「ひらめきの良さを見るテストです。」といった、個人の能力を測定するインストラクションは、反応数をはじめ、巧妙性、遠隔性を低減することはなかったといえる。（「創造性テストです。」とのインストラクションの挿入で、用途テストの反応数は増大し、4点描画テストの反応は、質的に高められてい

る。）それに対して、「変った」とか「面白い」といった、被検者の反応を予め規定するインストラクションは、反応数をはじめ、柔軟性、巧妙性、遠隔性の面で、反応を質的にも抑圧したと結論できよう。

V ま と め

TCT 創造性検査の標準的インストラクションに、4種の強調を加え、その効果を検討したわけであるが、各インストラクションの各テスト、尺度への一貫した効果は認められなかった。が、「面白い」とか「変った」といった、予め反応の特性を規定するインストラクションは、流暢性、柔軟性、巧妙性、遠隔性において、抑圧要因となるであろうことが示唆されたのである。ここで見られた抑圧の効果は、TCT-A型、つまり言語性テストよりも、TCT-B型、つまり非言語性テストで、より顕著であった。これについては、ひとつには、被験者の非言語性反応における「面白い」、「変った」という尺度と、本研究者たちの評価基準とが、大きく隔っていたということであるかもしれない、又一方では、自由な発想が、インストラクションにより抑圧された結果、質的に低い反応しか出現しなかったとも考えられ、今回の結果の解釈には、2つの可能性が考察された次第である。

今後、この2つの可能性の再検討、さらに、年齢、性別、地域性等による反応の検討、あるいは従来の検査課題とは形を変えた検査による反応の検討等、TCT 創造性検査によって可能な創造性研究を、様々な方向へ発展させたいと考えるものである。

最後に、本研究をまとめるにあたり、早稲田大学教授久米稔先生をはじめ、創造性研究会の諸先生方に、多大なご指導ご助力をいただきましたことに対し、心から感謝の意を表します。

表1 各群平均得点間のt検定結果(TCT-A型)

検査	比較対	標準	標準	標準	標準	創造性	創造性	創造性	面白い	面白い	変わった
		創造性	面白い	変わった	ひらめき	面白い	変わった	ひらめき	変わった	ひらめき	ひらめき
F	用途	*2,075	—	1,182	—	1,493	**3,326	1,212	1,452	—	*2,074
	原・推	—	1,105	—	—	1,653	—	—	1,047	—	—
	標 題	1,530	**2,677	—	1,071	1,222	—	**2,642	1,356	**3,781	1,923
X	用途	—	1,235	1,020	—	1,132	—	—	*2,008	1,581	—
	原・推	1,183	—	—	—	1,081	1,190	1,075	—	—	—
	標 題	—	1,587	*2,299	1,198	1,914	*2,564	1,579	—	—	1,156
O	用途	2,001	—	1,394	1,053	1,556	**3,447	—	—	—	*2,505
	原・推	—	—	—	—	1,011	—	—	—	—	—
	標 題	1,137	1,240	1,524	1,043	—	—	—	—	—	—
C	用途	*2,583	—	1,502	1,250	**2,666	**4,108	1,281	1,127	1,411	**2,741
	原・推	—	—	—	—	1,119	—	—	1,057	—	—
	標 題	1,078	1,658	1,883	1,416	—	—	—	—	—	—
M	用途	—	**1,276	—	—	—	1,435	—	*2,136	—	1,594
	原・推	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標 題	1,284	—	1,164	—	—	—	—	—	—	—
Cm	用途	—	*2,143	**2,632	—	*2,190	**2,703	—	1,379	*2,083	*2,564
	原・推	—	—	1,064	1,754	—	1,149	1,869	—	1,361	**2,804
	標 題	—	—	*2,198	1,887	—	1,429	1,095	1,262	—	—
Mm	用途	—	1,195	—	—	*1,984	1,299	1,339	—	—	—
	原・推	—	1,754	—	—	1,744	—	—	1,695	1,075	—
	標 題	—	—	—	1,395	—	—	—	1,107	1,653	—

*P<.05, **P<.01; —はt<1.0

表2 各群平均得点間のt検定結果(TCT-B型)

検査	比較対	標準	標準	標準	標準	創造性	創造性	創造性	面白い	面白い	変わった
		—	創造性	面白い	変わった	ひらめき	面白い	変わった	ひらめき	変わった	ひらめき
F	四・描	—	**4,031	1,056	**3,194	**4,618	1,568	**3,804	**2,824	1,150	1,921
	想像	—	**3,187	*2,579	1,523	**3,088	*2,504	1,481	—	1,500	—
	図・発	1,740	**4,873	**2,970	—	**2,952	1,127	1,642	1,886	**4,578	**2,798
X	四・描	—	*2,046	1,671	**2,926	**2,733	*2,450	1,758	—	**4,842	**4,736
	想像	—	**2,714	1,709	—	**3,111	*2,109	—	—	*2,448	1,556
	図・発	—	1,574	1,941	—	—	—	—	—	*2,500	1,941
O	四・描	1,149	1,150	—	**2,924	*2,133	1,824	1,542	—	**3,972	**3,534
	想像	—	**3,538	*2,408	1,339	**3,495	*2,284	1,154	1,105	*2,135	1,032
	図・発	1,198	**4,007	*2,357	—	**2,631	1,077	1,221	1,583	**4,009	*2,371
C	四・描	1,128	1,191	—	**2,654	*2,113	1,851	1,277	—	**3,736	**3,351
	想像	—	**3,740	**2,642	1,386	**3,652	*2,492	1,177	1,019	*2,230	1,199
	図・発	1,274	**3,518	*2,219	—	*2,102	—	1,133	1,274	**3,456	*2,107
M	四・描	1,217	—	—	**3,274	*2,029	1,785	1,862	—	**4,059	**3,730
	想像	—	**2,950	*2,218	1,198	**2,948	*2,145	1,051	—	1,758	1,018
	図・発	1,267	**4,467	*2,566	—	**2,968	1,164	1,235	1,906	**4,358	*2,502
Cm	四・描	—	—	—	1,081	—	—	1,381	—	1,851	*2,122
	想像	1,190	*2,469	*2,564	*2,272	1,863	1,935	1,515	—	—	—
	図・発	1,333	**2,777	**2,068	—	1,149	—	—	—	1,675	1,123
Mm	四・描	—	—	—	*2,439	—	—	1,993	—	**2,970	**3,061
	想像	—	—	—	—	—	1,117	—	—	—	—
	図・発	—	1,657	—	—	1,058	—	—	1,052	1,923	—

*P<.05, **P<.01; —はt<1.0

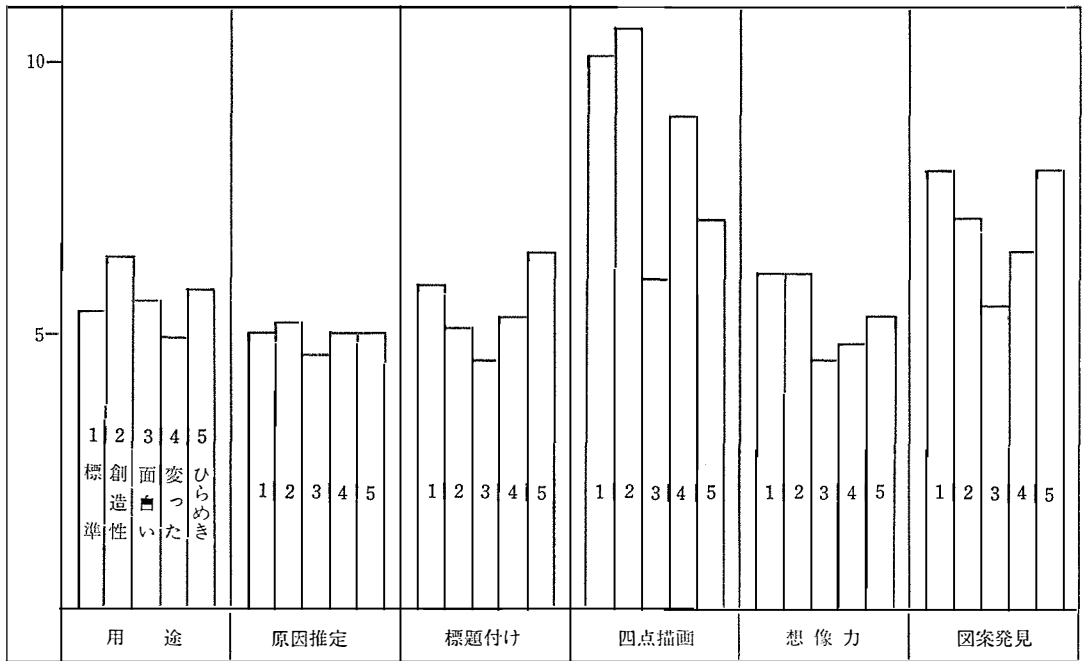


図1 各群の平均得点 (F)

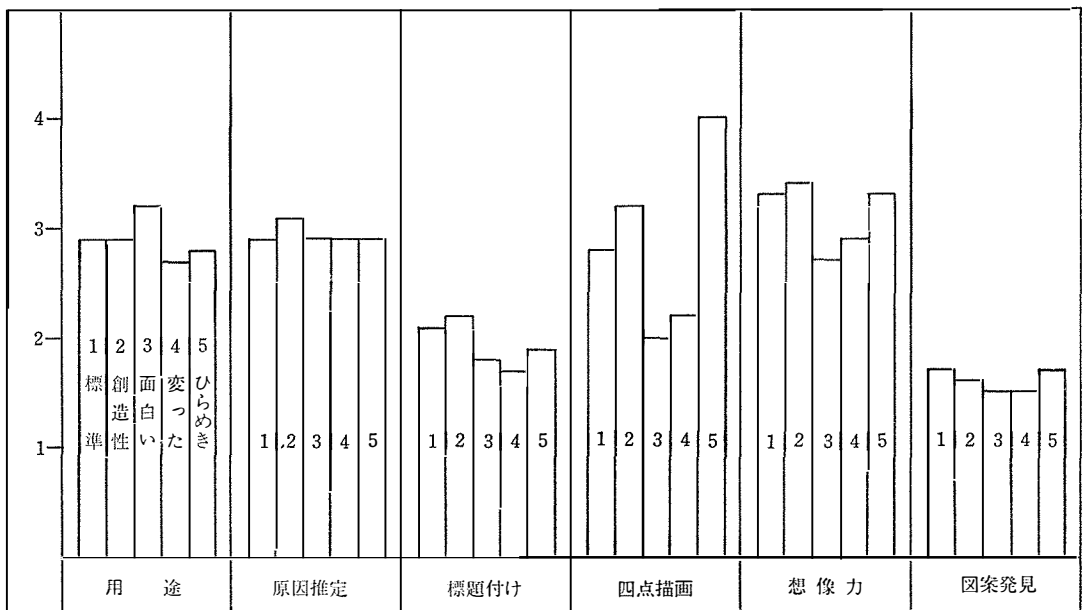


図2 各群の平均得点 (X)

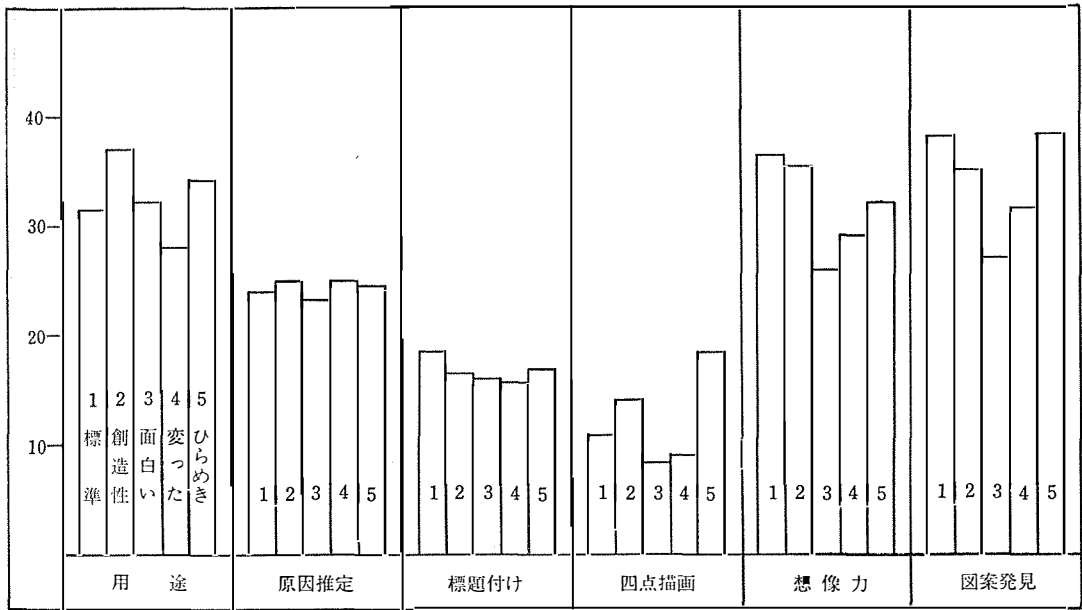


図3 各群の平均得点 (O)

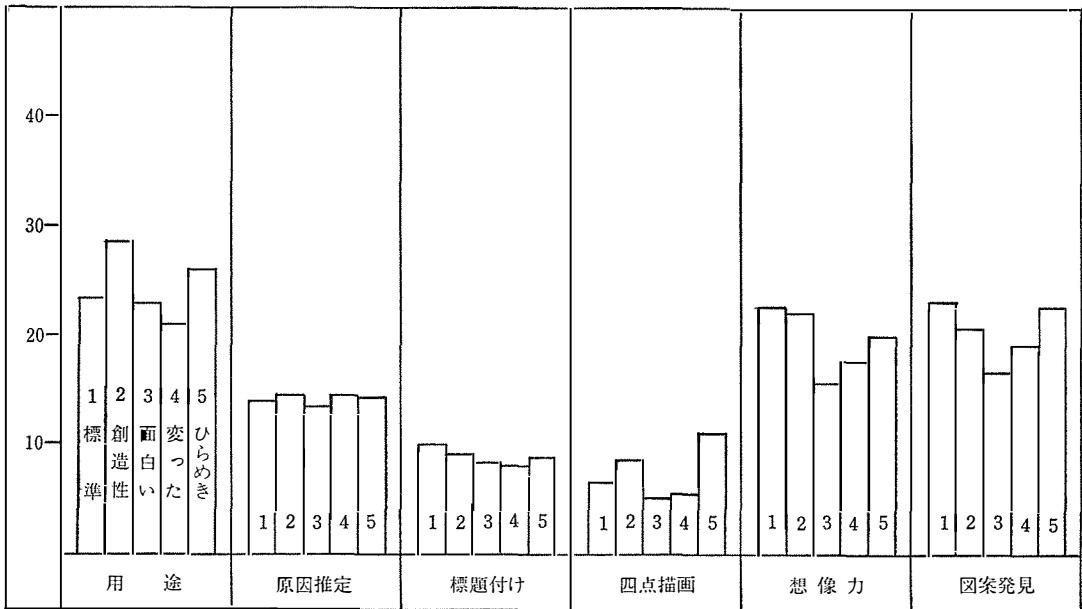


図4 各群の平均得点 (C)

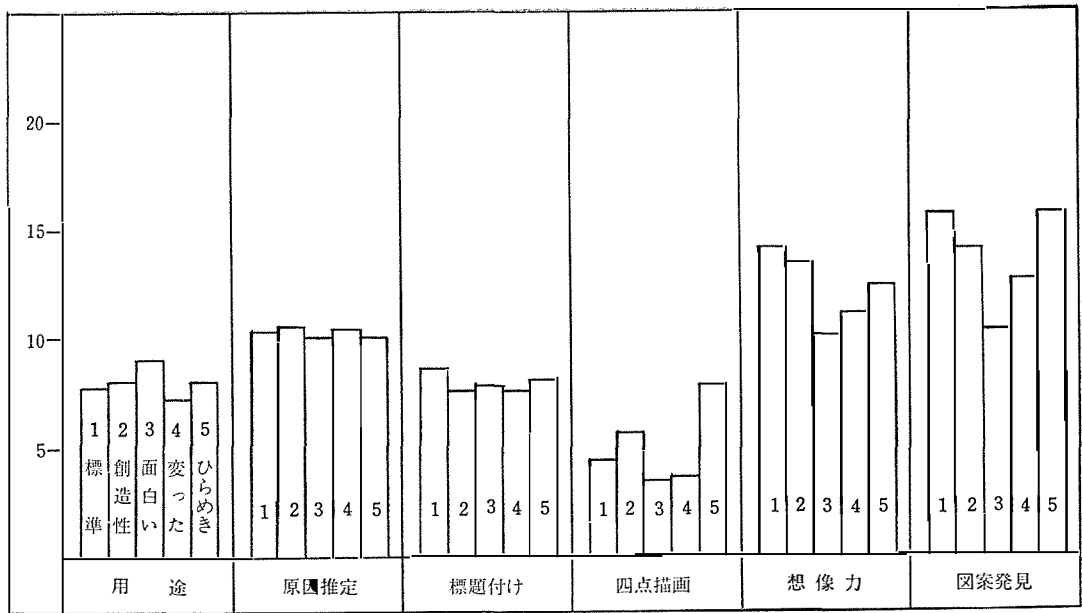


図5 各群の平均得点 (M)

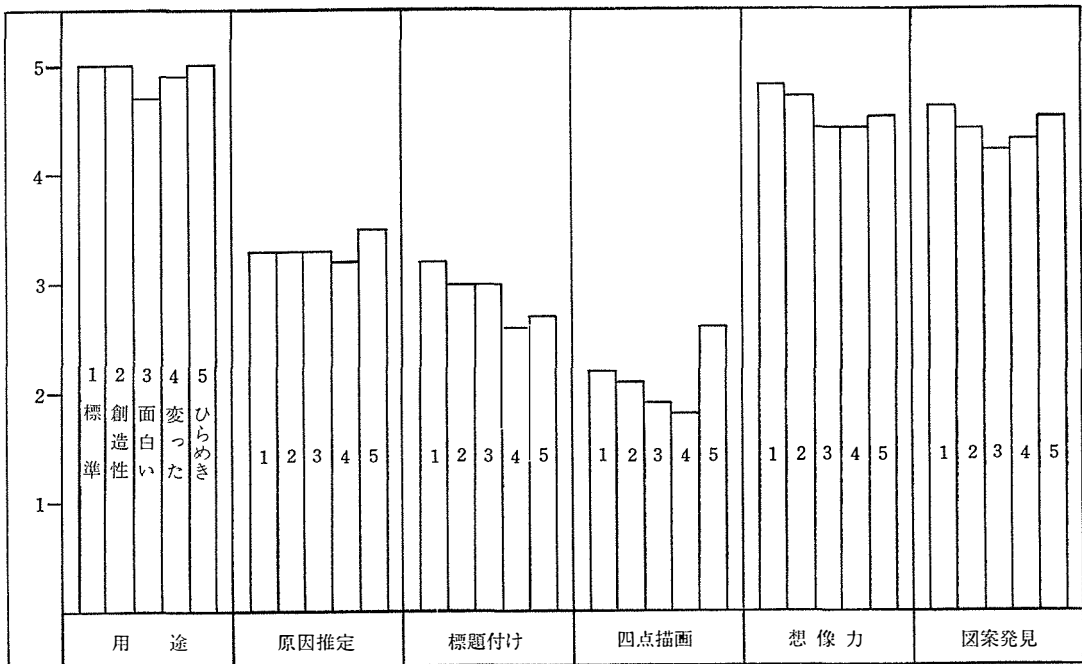


図6 各群の平均得点 (Cm)

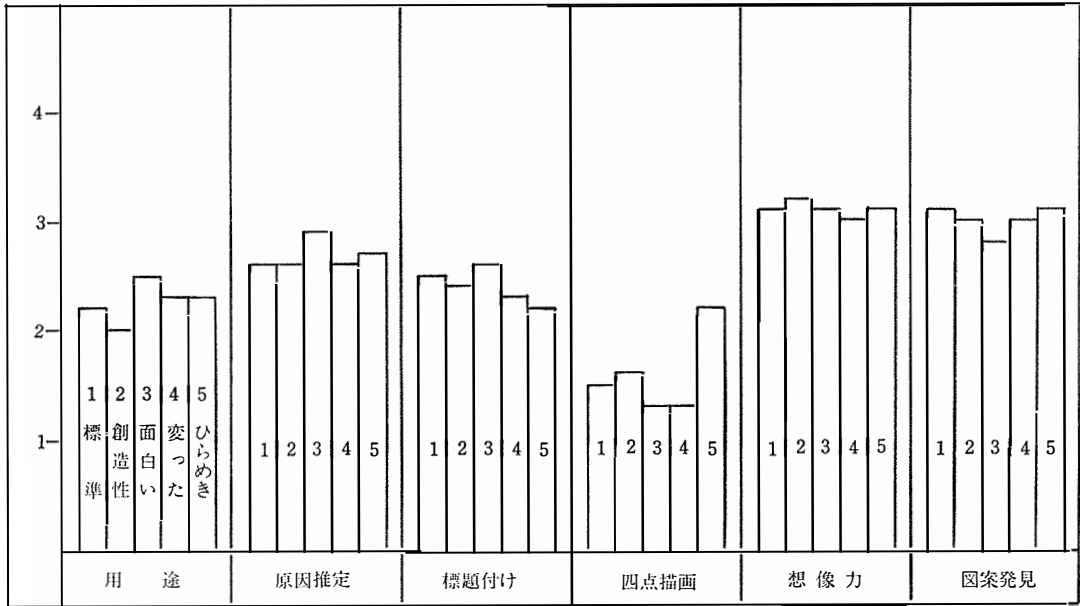


図7 各群の平均得点 (Mm)

参 考 文 献

- 1) 久米稔, 相馬一郎, 小関賢, 矢沢圭介, 黒岩誠
三島正英「創造的思考の評価基準について(1)
そのI, 用途テスト」日本心理学会第39回大会
発表論文集 1975
- 2) 久米稔, 小関賢, 高野隆一, 矢沢圭介, 黒岩誠
三島正英「創造性の評価基準について
Originality 反応評価の試み」早稲田大学心理
学年報第8巻 1976
- 3) 黒岩誠, 久米稔, 矢沢圭介, 高野隆一, 吉光清
星野美智子, 小関賢, 三島正英「創造的思考の
評価基準について(2)そのI, 原因推定テス
ト」日本心理学会第40回大会発表論文集 1976
- 4) 小関賢, 相馬一郎, 久米稔, 矢沢圭介, 黒岩誠
三島正英「創造的思考の評価基準について(1)
そのII, 想像力テスト」日本心理学会第39回大
会発表論文集 1975
- 5) 小関賢, 久米稔, 黒岩誠, 矢沢圭介, 高野隆一

- 6) 矢沢圭介, 相馬一郎, 久米稔, 小関賢, 黒岩誠
三島正英「創造的思考の評価基準について(1)
そのIII, 四点描画テスト」日本心理学会第39回
大会発表論文集 1975
- 7) 矢沢圭介, 久米稔, 黒岩誠, 高野隆一, 吉光清
星野美智子, 小関賢, 三島正英「創造的思考の
評価基準について(2)そのII, 標題付けテス
ト」日本心理学会第40回大会発表論文集 1976
- 8) 矢沢圭介, 伊賀憲子, 小関賢, 黒岩誠, 久米稔
高野隆一, 吉光清「TCT 創造性検査(A型)
におけるインストラクション効果について」日
本教育心理学会第20回大会発表論文集 1978
- 9) 伊賀憲子, 青柳肇, 矢沢圭介, 三島正英, 高野
隆一, 黒岩誠, 神戸文朗「TCT 創造性検査
(B型)におけるインストラクション効果につ
いて」日本教育心理学会第20回大会発表論文集
1978